出張報告

出張者：坂本惠（、横田淳子）
出張先：モスクワ（ロシア）
出張日程：２００９年１１月１９日～２４日
経費：坂本　特別教育研究経費「日本語教育研究の世界的な拠点の形成」
　　（横田　教育ＧＰ「世界的基準となる日本語スタンダーズの構築」）

日程
１１月１９日（木）　出発　ＪＬ４４１　成田→モスクワ
　　２０日（金）　モスクワ国立大学訪問
　　２３日（月）　ロシア国立人文大学訪問
　　出発　ＪＬ４４２　モスクワ→成田
　　２４日（火）　帰国

モスクワ国立大学アジア・アフリカ研究院
Institute of Asian and African Studies
Moscow State University
　Prof. Bykova

【聞き取り内容】

- アジア・アフリカ研究院では、アラビア語、インド語、ペルシャ語、中国語、トルコ語、韓国語、モンゴル語などとともに日本語がある。それぞれの語科がさらに言語・文化と経済・社会に分かれており、日本語では言語・文化・文学・歴史を専攻する学生と経済・社会を専攻する学生がいる。
- 教員は日本語学科に 20 名いる。男性 4 名、女性 16 名。そのうち 2 名が日本人でうち 1 名は国際交流基金からの派遣である。日本語のほかに、日本語言語学、語彙論、日本語史、理論文法、方言、文体などを教えている。
- 1 年生で概論的な授業を取り、2 年生で専攻別教育が始まる。日本語学入門やゼミナールなどである。3 年生からは語彙論などの専門的な授業を取る。以前は 5 年制で修士課程相当であったが、学部 4 年制、その後修士 2 年、博士 3 年という制度に変わっている。現在東外大に留学中の 3 年生がこの制度の 1 期生である。
- 学生の週当たりの日本語の勉強は以下のとおりである。
　1 年生：16 時間

2 年生：14 時間
3 年生：12 時間
4 年生：10 時間
学生の専門が違うので、時間割の都合上、レベルでまとめて教えることができず、学科別の授業となり、少人数教育になる。

- 留学先の日本の大学は 10 校ぐらいあり、現在 18 名が留学している。日本関係の学科の学生が試験を受け、その中から選抜される。
- 留学に期待することは、日本語レベルの向上とともに、日本人学生や日本人との交流と日本での生活を通して、日本文化の理解を深めることである。
- 学生は卒業後、企業、政府機関に勤めたり、さらに大学院に進んで研究者になったりする。
- 専門家を育てることを目標としているが、研究者になる人ばかりではないので、実務と日本語、そして人文教育を重視している。
- 歴史などの他学科の教員は 5 名～10 名である。

【考察】

- 学部レベルでは日本語や日本の専門教育というよりも一般教養としていい教育をしていこうという方針のようである。
- われわれのような日本からの訪問者に対して学生に案内をさせたりして積極的に日本語を使う機会を与えているためか、3 年生の女子学生 2 人は海外で 2 年強日本語を勉強しただけとは思えないほど日本語を流暢に話していた。

ロシア国立人文大学東洋・古典研究院
Institute of Oriental and Classical Studies
Russian State University for the Humanities
Prof. Ilia S. Smirnov (学部長)
Prof. Alexander Mesheryakov（日本史）

【聞き取り内容】

- Institute of Oriental and Classical Studies の Oriental Studies は東洋つまり日本、中国などの言語、歴史、社会、文化を教えているが、Classical Studies は古典ギリシャ・ローマの言語、歴史、社会、文化を扱っている。教員は全部で 100 名ほどで、学生は 200 名ほどである。
- 日本語学科ができてまだ 5 年であり、現 5 年生が 1 期生となる。現在、東外大に留学している学生は 5 年生である。5 年生のうち、4 人が現在日本に留学している。留学

する学生を選考する際日本語だけでなく、学問の力も重視する。

- 学生の募集は 3 年に 1 回で、現在の 5 年生の他には 2 年生の学生がいるだけである。
- 5 年制の学生は 1 期生が最後で、その後は 4 年制となる。
- 1 学年 20 名ほどが入学するが、半分ほどは途中でやめて他の学部に移る。
- 2 年生から学年末論文を書き、5 年生で卒論を書く。
- 留学した場合は、留学先での単位は認めないので、卒業が遅れる。卒論は指導できないので、基本的には自分一人で書くことになる。
- 日本語を勉強している学生は同じ大学の言語学部や政治学部にもいる。教員も別にいる。
- 東外大はロシア人文大学全体と協定を結んでいるので、東洋・古典研究院が留学生を送れるのは 3 年に 1 回である。
- 言葉を使って歴史や文学を研究することを主眼にしている。就職先は他大学、企業、政府機関などである。
- 日本語学科の授業は日本語のほかに、古語、文語、漢文、中国語もあり、それらを重視している。たとえば、2 年生の授業は日本語は 14 時間（7 コマ）、中国語は 4 時間、古語は 4 時間である。

【考察】

対応してくれた二人の先生はモスクワ国立大学出身だそうであるが、モスクワ国立大学にはない、新たな日本語学科を目指して、学科を始めたようである。サンクト・ペテルブルグ大学が模範だとのことで、日本語の専門家というよりも日本学の専門家、ジャパノロジストの養成を目指しているようである。そのため、留学にあたっても、日本語に対する期待よりも、学部の授業をとって日本の歴史や文化を深めてきてほしいということであった。

東外大は日本語だけでなく、日本関係の授業もあるのでよいということだった。

МОСКОВСКИЙ
ГОСУДАРСТВЕННЫЙ
УНИВЕРСИТЕТ
им. М. В. Ломоносова
ИНСТИТУТ
СТРАН
АЗИИ И АФРИКИ
ОБЩЕСТВО ВЫПУСКНИКОВ
ИСАА